

県勢、男女とも初戦突破

全日本高校バレー

高校バレーボール日本一を決める全日本高校選手権は5日、東京体育館

で開幕して1回戦が行われた。県代表の男子で2年ぶり3回目出場の新造学園はサーブとブロック

でペースをつかみ、深谷ね、2-0で勝った。女子の大和南(神奈川)

が郡山女大付(福島)に2-1、北九州(福岡)は津商(三重)に2-0で勝って2回戦へ進んだ。

男子は東福岡が安来(島根)に、初出場の荏田(神奈川)は一関修紅(岩手)にいずれもストリート勝ちした。

6日の2回戦で創造学園は佐賀商と、都市大塩尻は八王子実践(東京)とそれぞれ対戦する。

▽男子1回戦
創造学園 2-25(161)0 深谷
▽女子1回戦

東京都 2-25(181)0 岡山理大
大塩尻

都市大塩尻(女子)勝って反省



都市大塩尻は攻守でオールラウンドに活躍する宮下が年末に左肩を脱臼し、先発を外れた。その穴を埋めたのが、控えに回っていた主将の牧田。本職のレフトではなくライトでのプレーとなったが、「自分のできることをしっかりやろう」とコート内で精力的に声を出し続け、遜色のないプレーで不安を解消した。

立ち上がりはもたついてリズムをつかめなかった。岡田監督は「いつものパターン。自分たちで流れを切るケースがいくつかあった」。第1セット

都市大塩尻―岡山理大付 第1セット、スパイクを決める都市大塩尻・高相

トス乱れ持ち味使い切れず

トスで逆転してからは地方の差が出たが、指揮官は「リードすると緩みが出てミスが出る。決していい状態ではない」と厳しい評価だった。

トスが乱れ気味で、持ち味のコンビネーションを使い切れなかったことも反省点。「センターとライトが機能していなかった」と岡田監督。それでも窪田を中心にサーブで崩したり、ブロックで得点したりして相手にペースを握らせなかった。

次の相手は八王子実践。都市大塩尻の軸になっている榎花中学出身の3年生は、2010年の全国中学大会決勝で八王子実践中を破った。窪田は「絶対に負けたくない。高さやパワーがあるので、ブロックでしっかりワンタッチを取って切り返したい」と表情を引き締めた。

■この記事・写真等は信濃毎日新聞の許諾を得て転載しています。無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。